

1 学校の概況

- 学校名 ルネサンス高等学校
- 課程 広域通信制・単位制・普通科
- 教職員 校長 桃井隆良
教頭兼事務長 1 名 教諭 (常勤) 10 名 教諭 (非常勤) 14 名
養護教諭 2 名 事務長補佐 1 名 事務 2 名 用務 1 名 計 32 名
- 生徒数 (学則定員 3,300 名) 932 名
平成 30 年度入学者数 444 名
- スクーリング参加生徒数 752 名
- 卒業生 272 名
進学 31.6 %, 就職 9.8 %, その他 (家事手伝い, 現在の仕事の継続等) 58.6 %

(1) 教職員

教職員数については、常勤の教員 11 名、非常勤の教員 14 名 (うち 5 名は姉妹校との兼任)、計 25 名を配置している。添削指導については、すべての教科について専任の教員が本校において実施する体制を整えるとともに、面接指導 (集中スクーリング) については、姉妹校との兼任の教員を加えて各教科とも生徒数に応じた教育ができる人員を確保している。

今後の生徒数の増加に対応しながら、教科指導の専門性を高めていくため、さらに優秀な人材を確保するとともに、常勤の教員の割合を高めていくことが必要である。

また、現在の地元採用状況は 4 名 (大子町在住者 5 名) となっているが、人材確保のために関係機関と連携し、当初の目的の一つである地元雇用促進に継続して努めていくことが望まれる。

(2) 生徒数

在籍生徒数は、東日本大震災や豊田校開校などの影響から回復した平成 24 年度以降、少子化や他の広域通信制高校との競合などの影響を受け、27 年度 1,043 名、28 年度 966 名、29 年度 936 名、平成 30 年度 932 名とやや減少している傾向が見られる。

入学者数については、平成 27 年度 (359 名) と比べると、28 年度 455 名、29 年度 387 名、30 年度 444 名と増加している傾向がうかがえるものの、決して予断を許せない状況にある。

今後は、不登校経験者や高校中途退学者等のこれまでの主たる入学対象者に加え、中学生や全日制・定時制高校に通う高校生に対し、ルネサンス高校の教育システムの魅力を発信していく必要がある。

平成 25 年度から法人税所得割の納付が始まっており、経営の基盤は整っているといえるが、今後とも中学校・高等学校に対する広報活動を強化し、地元 (茨城県・大子町) からの入学者をさらに増加させるよう努め、定員である 3,300 名の確保を目指していく必要がある。

(3) スクーリングによる経済効果

スクーリングについては 752 名 (平成 30 年度入学生 366 名、平成 29 及び 28 年度入学生 386 名) が参加しており、宿泊、送迎バス、施設利用、土産品の購入等、体験学習及び観光等を通じて年間 46,950,000 円 (1 人あたりの参加費 平成 30 年度入学生スクーリング費用 65,000 円、平成 29 及び 28 年度入学生スクーリング費用 60,000 円) の経済効果が認められる。

2 学校の教育活動

ルネサンス高等学校は、『学力がつく・やりたいことを極める』新しい高校』を教育理念として、平成 30 年度は、4つの目標「1 基礎学力を再生して(学力回復教育) 高校を卒業」「2 学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に」「3 目覚めよ！自分力。やりたいことにチャレンジ」「4 徹底的な個人指導と親身なサポート体制」を掲げて教育活動に取り組んできた。

その結果については、ルネサンス高等学校学校評価・改善委員会により、別紙の通りの学校評価(自己評価)がなされている。今後とも、学習指導要領及び高等学校通信教育規定に基づく質の高い教育活動が展開できるよう教育内容のさらなる充実と教員の指導体制の強化に努めていくことが必要である。

(1) 教育課程

学習指導要領及び高等学校通信教育規定に基づく適切な教育課程が編成・実施されている。

また、生徒の入学年次ごとに標準履修科目を設定しているが、転編入学の生徒に対応できるように単位制の趣旨を生かして履修モデル以外の科目も履修できるように編成されている。今後とも、履修相談に当たり生徒の希望をよく聞き、生徒の特性、進路等に応じた科目の選択ができるよう努めていく必要がある。

(2) メディア学習の充実

設立当初から、インターネットを活用して、生徒が動画を視聴した上で、小テストにより理解度を確認しながら学習が進められるようにメディア教材を工夫している。

さらに、平成 27 年度から複数のメディア教材を導入し、今年度は 34 科目について「東京書籍教科書解説メディア」、「NHK 高校講座」、本校の自主制作メディアなどの中からの 2 メディアで学習する体制をとっている。

内容・程度ともに通信制教育を念頭に置いて制作された「東京書籍教科書解説メディア」及び「NHK 高校講座」に加えて、本年度は多くの科目について自主制作メディアを用い、より生徒の実態に合うように内容が改善されている。

生徒が複数のメディア学習を行ったことは、インターネットの視聴履歴で確認するとともに、視聴後にそれぞれのメディアの内容に関する設問をすることにより確認している。

(3) 添削指導

従来からインターネットを活用してレポートを提出させる添削指導を行っており、レポートの内容は、選択肢から正答を選ぶ設問や用語や文章で記述させる設問など、多様な形式を採り入れたものとなっている。

不正解の内容を含むレポートについて、記述式の場合は個別の指導や解説を付して返却している。しかし、択一式の場合は正誤を判断しただけで返却しており、記述式の場合と同様に丁寧に添削していくことが、次年度以降の課題である。

(4) 面接指導

面接指導(スクリーニング)の日数については、27 年度以降は 2 メディアで学習する体制をとったことから、学習指導要領を運用して面接指導の時間数を一律に 8 割以内で免除する措置を採用して 2 泊 3 日(本年度は 3 泊 4 日)で実施してきた。来年度以降は、平成 28 年 9 月に策定された「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」の趣旨に基づき、面接指導時間数を一律に 8 割以内で免除することを改め、6 割以内の免除

を基本とするよう改善し、3泊4日で実施することになっている。

面接指導の内容については、各教科・科目の担当教員が、生徒の興味・関心を考慮しながら、メディア学習の内容と関連付けて限られた時間の中で完結するよう内容を工夫した授業が展開されている。

平成28年度までは、内容の類似した科目（例えば、現代文Aと現代文B）は同一の教員が合わせて指導していたが、平成29年度以降は、履修する生徒が少ない科目についても、科目ごとに指導者・実施場所・指導内容を分けた個別指導を充実させるよう改善されている。

(5) 試験

試験は、本校において、面接指導期間中に、複数の教諭の監督の下で厳正に実施されている。

出題形式については、すべての科目について記述式の問題数が選択肢の問題数より多くなっており、内容、分量とともに適切である。また、問題は毎年新たに作成するとともに、各科目とも難易度が同程度の問題を複数用意し、不正行為が行われないよう配慮されている。

なお、試験は面接指導期間中に実施しているため、面接指導の時期が早い場合、当該年度の添削指導や面接指導が十分に行われない段階で受験する生徒がいるという問題が生じていた。この反省に立ち、本年度は、面接指導を11月以降に実施し、また、試験時間を3泊4日のスクーリングの最終日に設定することにより、添削指導や面接指導が進んだ段階で試験を実施するよう改善された。

(6) 生徒指導

生徒指導については、校内体制や危機管理体制が整備されており、生徒の在宅時やスクーリング参加時も含め重大な事故もなく学校教育が安全に展開されている。

また、「いじめの防止等のための基本的な方針」（平成25年10月11日 文部科学大臣決定）を受けて平成27年度に策定した「ルネサンス高等学校いじめ防止基本方針」に基き、いじめ対策委員会を設置するとともに、校内研修を充実させている。

保護者との連絡については担任を中心に行われているが、学校としてのより組織的な対応を行っていく必要がある。

(7) 進路指導

進路指導については、進路希望の実現に向けて個々の生徒の状況に応じた支援を行っている。新宿代々木キャンパスにおいては、希望者を対象として保護者・生徒・学校の三者による面談を開催し、進路や学校生活に関する相談を実施している。

卒業生の進路については、生徒の希望や実態に応じた支援を行い、難関大学への進学者が増加するなどの成果をあげているが、特に就職関係についてはいっそうの支援体制の充実が必要である。

(8) 保健指導

保健指導については、スクーリング時の特別活動（健康）を中心に、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取り組みを行っている。

なお、(6)～(8)については、今後も、警察・消防・ハローワーク・学校医などの関係機関との連携をさらに強化し、保護者との連絡・連携を密にしながら、より質の高い対応を図ることが望まれる。

3 学校の管理運営

(1) 学校運営

学校運営については、学校としての運営・責任体制が整備され、教職員の信頼関係のもと、適切な教育課程に基づく教育が展開されている。今後は、校内の会議や研修会を活用し、教員の相互理解や課題に対する意識をさらに高めていくことが望まれる。

(2) 高等学校等就学支援金事務

高等学校等就学支援金事務については、法及び文部科学省の事務処理要領に基づき適正に執行されている。

しかしながら、年間を通して転編入学者がいることや生徒により前籍校での修得単位数が異なる等の複雑な事情から、実際の事務処理において一部不正確な処理を招いている。今後、学校内の事務処理体制をさらに整備するなどして、さらに正確な事務処理に努める必要がある。

4 学校の施設・設備

(1) 面接指導等を実施する本校の状況

ルネサンス高校の面接指導・添削指導はすべて、特区内である大子町にある本校及び関係施設（校外における体験活動等）で実施されている。

ルネサンス高校は、廃校となった旧浅川小学校の校舎・校地活用という地域ニーズに基づき設置されたため、旧小学校の校地、校舎をそのまま引き継いで、よく整備をしながら使用している。地域住民と協力しながら四季の変化に応じた草花を植えたり、道路に面する花壇の植栽を整備したりするなど、環境美化に努めている。

また、「高等学校通信教育規定」に規定する施設（教室、図書室、保健室、職員室）及びスクリーニング時に必要な設備（視聴覚設備、図書、保健関係備品等）を備えている。

本年度は、2(4)で述べたようにすべての科目について面接指導を科目ごとに分けて実施するため、1つの教室を複数のスペースに分け、個別指導のための場所を確保した。

(2) 連携施設の状況

ルネサンス高校は、2つのサテライト施設（東京都渋谷区、神奈川県横浜市）を設置している。いずれの施設も、面接指導、試験等の教育課程内の教育活動は実施していないが、学習支援、課外活動、自習などの支援を行っており、本校から離れた場所の生徒に対して学習面や生活面で支援していく貴重な場となっている。なお、連携施設における指導は、本校の教職員が兼務している。

なお、本年度から、渋谷区のサテライト施設が学校そのものであるという誤解を生徒・保護者に与えることのないよう、名称を「ルネサンス高校連携 新宿代々木キャンパス」と改めた。

5 学校設置会社の事業報告書の記載事項に掲げる事項

(1) 学校設置会社の役員(平成30年度)及び株式の状況(平成29年度事業報告書による)

学校設置会社であるルネサンス・アカデミー株式会社には、現在7名の役員が就任している。いずれも親会社であるブロードメディア株式会社などの他の会社の役員等

を経験あるいは兼務しており、社会的信望を有している。また、代表取締役社長など複数名はルネサンス高等学校長を経験しており、いずれも学校を運営するために必要な知識又は経験を有している。

株式の状況（平成 29 年度）については、発行可能株式総数 20,000 株、発行済株式の総数 7,300 株、株主数 1 名、ブロードメディア株式会社 6,660 株（持株比率 91.23 %）、ルネサンス・アカデミー株式会社 640 株（持株比率 8.77 %）である。

学校設置会社の役員及び株式の状況は、学校を運営するに当たり適切である。

(2) 学校の経営に必要な財産等の状況（平成 29 年度事業報告書による）

平成 29 年度における財産及び利益の状況は、売上高 1,416,644 千円、経常利益 204,828 千円、当期純利益 138,820 千円、総資産 1,422,738 千円、純資産 623,460 千円である。

学校の経営に必要な財産等の状況は、学校を運営するに当たり適切である。

平成30年度太子町通信単位制高等学校審議会の運営状況について

1 開催状況

- (1) 日時 平成31年3月13日(水) 午前10時～12時
- (2) 場所 太子町立浅川集会所
- (3) 構成員 会長 高林 力 (浅川区長, 元地方公務員)
副会長 神長富子 (元町会議員, 元社会教育指導員)
委員 岡田和夫 (元公立高等学校教頭)
委員 小林光夫 (元公立高等学校教諭)
委員 神長 守 (元公立小中学校校長, 元下小川第一区長)
委員 益子依子 (元公立学校事務職員, 現塾講師)

2 開会

- (1) 審議委員の委嘱
- (2) 審議会長及び副会長の選任

3 授業参観

- (1) 会場に隣接するルネサンス高校にて, 審議会委員による授業参観を実施
- (2) 科目 特別活動
生物基礎

3 報告

- (1) 学校設置会社による学校設置事業の運営状況等について (ルネサンス高等学校長)
 - ① ルネサンス高等学校の教育活動の概況
 - ・教職員名簿
 - ・教育課程
 - ・スクーリング年間計画
 - ・ルネサンス高等学校の生徒数の推移
 - ・平成29年度学校自己評価 等
 - ② 学校設置会社 (ルネサンスアカデミー株式会社) の運営状況
 - ・事業報告書
 - ・貸借対照表
 - ・損益計算書
- (2) 認定地方公共団体の指導について (太子町総務課)
 - ① 平成29年度ルネサンス高等学校評価書に基づく説明
 - ② ルネサンス高等学校への訪問指導・定期指導
 - ③ 通信単位制高等学校指導員の活動
- (3) ルネサンス高等学校の移転について (太子町総務課)
 - ① 移転の理由 現施設は教室数が少なく, 老朽化しており, 移転により学校施設の充実を図ることができる。
 - ② 移転予定地 旧西金小学校 (太子町西金 250 番地)
 - ③ 移転予定時期 平成32年度

4 審議

- (1) 学校設置会社による学校設置事業の運営状況等については, 適正である。
- (2) 認定地方公共団体の指導については, 適正である。

教育理念	「学力がつけやすいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学ぶ人に 自覚めよ！自努力。やりたいことにチャレンジ 徹底的な個人指導と親身なサポート体制 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づく、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の更なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 いじめの防止等に関する措置を実効的に行うためにいじめ対策委員会を運営する。 学校運営に関わる関係者評価を実施し、より質の高い学校運営をする。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善策
学校運営	教育課程	教育目標	多様な生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた適切な支援・指導を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の不足している生徒への個別対応については、本年度はレポート学習を仙台・高崎・宇都宮・新潟で実施した。 レポートに対する生徒の理解度の把握に努め、更なる学習効果の向上に取り組みたい。 教育課程は標準的な履修科目以外の科目も選択できるように構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神的及び学力的に不安のある生徒の平常の学習状況については、限界もあるが、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で支援できる体制を更に整備していく。 レポート学習については、支援体制(主要都市でのレポート学習の開催等)を更に拡充・整備していく。 スクーリングの各授業については、学習指導案の提出とともに授業参観・評価をし、充実・向上を図る。
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に準拠しているか。また、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができていないか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施の考え方についての理解はできている。より効果的で質の高い面接授業を求め、不断の努力をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との履修相談にあたって、生徒の希望をよく聞き、希望に応じた履修登録となるよう、引き続き努める
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用され、新任教員へのサポートも適切に行われた。 	
		教員・教科関連連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築された教育活動が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間、事務職員間の連携・情報共有のため、引き続き、職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があるか。また、それらの機会を通して、相互理解及び連携がとれているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員会議やミーティングを行っており、教員と事務部門での情報共有・意見交換の場面設定も行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各主任、主事が適宜自発的に会議を招集していく体制づくりを行い、情報共有や意思統一を図っていく。
		会議の有効性	職員会議や運営会議、スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能しているか。	A		
	学校設置会社及び財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校を運営するにあたり適切なものとなっているか。また、その状況は学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 	
		学校の経営に必要な財産等の状況	学校を運営するにあたり適切なものであるか。また、その状況は学校の経営に必要な財産等の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校設置会社の経営及び財産に関する状況が事業報告書に適切に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金に係る事務について、学校事務職員による業務内容の習熟を図るとともに、学校設置会社の職員によるサポート体制の探り、引き続き適時性・正確性を確保する。
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務について点検体制を確立し適正に執行しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金については適正に執行されているが、事務体制を維持し、引き続き適時性・正確性を確保する。就学支援金の支給要件につき誤解のないよう、募集要項の記載を改めた。 	
	施設及び設備	面接指導等を実施する施設・設備	面接指導等を実施する施設・設備が教育上適切であるか。また、それが事業報告書に記載されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導等は特設地域内の学校で適切に行われている。 添削指導については本校専任の教員が行うようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導等、より適切な施設・設備で実施できるよう努める。
連携施設		連携施設で学習面、生活面の支援が適切かつ十分に行われているか。また、それが事業報告書に記載されているか。連携施設の名称は適切に改められたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設では、面接指導等は行わず、本校教職員による学習支援、課外活動等が適切に行われている。学習支援、課外活動等の内容については一層の充実の余地がある。 連携施設の名称を「ルネサンス高等学校連携新時代タネキャンパス」に改めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設における学習支援、課外活動等の内容の不断の充実を図る。 	
危機管理	役割分担	事故・災害などに対する教職員の連携及び役割分担が明確になっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係各所(警察・消防・学校面など)の連携はとれており、事件・事故・災害などの際の対応体制も整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を学校安全計画に位置づけ、生徒が体験的に理解できるように計画的に実施し、万が一の災害等に備える。 	
	安全管理	安全な学習環境づくり(校舎内外の安全点検管理及び諸活動)を推進しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実施していく必要がある。 		
	危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれているか。	B		<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高めるために半年に1度、全体会議を実施するとともに、町役場、警察、消防と一層の連携を図りたい。 	
	個人情報管理	生徒個人情報管理が適切に行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーマークを取得している。 個人情報管理に関する研修も定期的に行っており、生徒のプライバシーの確保を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修体制をさらに整え、生徒個人情報管理の徹底を図りたい。 	
教育内容・支援	スクーリング参加状況	年間計画に基づいた実施と参加の促進が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた実施ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正規模での実施に向けて、参加の一層の促進・調整を図る。 	
	面接指導・添削指導等	スクーリング内容(面接授業)	<ul style="list-style-type: none"> 各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開しているか。 少人数の科目についても充実した指導が行われているか。 スクーリング実施日数を2泊から3泊にし、授業時間を40分から50分に充実させたことの結果は表れているか。 一部に生じた体育の授業時間不足に対する改善は図られたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価による評価結果に基づき、実施日程や面接時間等を再検討し、更なる顧客満足度を高めていくよう努める。 複数科目をまとめて面接指導することなく、科目ごとに面接指導をおこなった。 変更前より、授業の編成と展開に余裕ができ、かつ内容の充実も図ることができた。 スケジュール作成・授業編成時にミスがないようシステム上でチェックが入るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接授業を8割削減時間から6割削減時間数にすることにより、教育内容の一層の充実を図る。 精神的及び学力的に不安のある生徒については特に、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で連携し、よりきめ細やかに支援できる体制をさらに整備していく。 生徒の就学状況・履修状況に応じて、スクーリングをより柔軟に編成する。
		レポート内容・添削	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心・意欲が高まるよう教材の内容を工夫するとともに、複数メディア導入に伴う生徒の学習成果の確認を的確に行っているか。 また、インターネットを活用した添削指導に遅延がないよう、計画的に業務を行っているか。 生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説を加えた指導を行っているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> メディアを含む学習内容は、生徒の学習成果(興味・意欲・関心)が上がるよう細やかな改善に努める必要がある。 添削指導に遅延がないよう計画的なメールアナウンスがなされている。 生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説を加えた指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> メディア学習の内容を、生徒の学力に合った、より適切なものへと不断に改善していく。また、全てのメディアについて、計画的かつ継続的な学習・十分な視聴時間を確保する。 レポート添削については、択一問題で不正解になったレポートに対する個別解説や指導を充実させ、より生徒一人ひとりの学習状況に応じたものにしていく。
	試験	試験の実施	学習成果が適切に評価できる時期に試験を実施するとともに、問題内容の改善を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> (4月生の)スクーリングを11月以降に実施し、また試験をスクーリングの最終日(第4日目)に実施することで、試験より適正な時期に実施できるようになった。 また、試験時間を1時間増やすことで、より適切で余裕を持った試験の実施が行えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の就学状況・履修状況に応じて、試験をさらに適正な時期に実施できるようスクーリング時期を設定するよう努める。
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している連絡・学習サイト「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 左記「マイページ」により、学校イベントなどの情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用し、学校の雰囲気をつかむことができるツールを活用していく。
個人に対する効果的な情報提供		上記「マイページ」にて、生徒及び保護者が、学習進捗の確認や各分野毎(連絡など)の情報が閲覧できるようになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な発行物「ルネ高通信」を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。 		
情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点を、タブレット(Pad等)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通して、より活用能力を高めることができるよう努めている。また、継続してインターネットによるトラブル等について理解を促すよう努めている。 	
	情報モラル指導	情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組んでいるか。	A			
生徒・進路・保護指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進路卒業・進路決定)が高められているか。	A			
		学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識のもと、運営されているか。また、生徒の実態に応じたテーマについて、計画的な教員研修を実施しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> スクーリング時の生徒指導については、教職員間で連携を取りながら対応できている。 生徒在宅時については保護者に任せられる部分が多いと云わざるを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等の活用のほか、定期的な発行物「ルネ高通信」や、インターネット上の生徒への連絡・学習サイト「マイページ」を通じ、組織的な生徒指導の更なる充実を図る。 外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒対応ができるよう努める。 	
	家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるよう支援しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携については、担任が電話・メール・SNS等を活用し、連絡・意思の疎通に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する研修等の充実を図る。 	
	いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会が設置され、適切に運営されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対策委員会を適切に運営し、いじめ防止に努めた。 		
進路指導	キャリア教育	生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に実施している。 試験対策指導(筆記・面接など)の更なる強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路について、担任一人ひとりが最新情報を共有し、進路指導主事による支援のもと、適切な進路指導を行える体制を整える。 	
	保健指導	生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングの特別活動(健康)にて、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取り組みを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅時の健康保持増進を生徒に平素から呼びかけるほか、生徒本人・保護者から生活状況・健康状態を報告願う仕組みを作りたい。 	
その他	学校関係者評価	「大子町通信制単位制高等学校協議会」ほか学校関係者による評価・それぞれの立場・視点から意見を出し合うことを通じ、開かれた学校づくりが進められているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などとの学校が、お互いに理解を深めることに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> より充実した関係者評価を実施し、その公表に努める。もって教育の質の向上、学校運営の改善に努める。 	
	教職員研修	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修(生徒指導)のほか、県主催研修への参加者による伝言会にて共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の実施回数を更に増やし、教職員のスキルアップを図る。 	
	他校及び関係機関との連携	姉妹校(豊田・大阪校)や県私学通信制定時制高等学校連絡協議会加盟校と、通信制高校の在り方などについて情報交換等を行い、学校全体の教育力を高めることに努めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校があることのメリットを最大限に活かし、更なる教育力の向上を図りたい。 県私学連絡協議会に欠かす参加し、情報交換等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校との連絡を密にとり、運営方法全般に関する事例等を共有できる仕組みづくりをさらに整えていく。 	

校長 教頭 事務長

